

望ましい人間関係を育む学級づくり

ー自己受容を促す総合単元的な道德学習の実践を通してー

小松原 樹
児童生徒支援コース

1. 研究の目的

現代社会では、対人関係や集団生活に不安を抱え、学級内で良好な人間関係を構築できない生徒が増加している。このような現状に対し、文部科学省（2022）は『生徒指導提要』において、「自他の個性を尊重し、相手の立場になって考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係」を形成することの重要性を挙げている。そこで、本研究では「自己受容」という概念に着目し、自己を受容するプロセスについて学習することで、自己の受け入れ方や感じ方が他者を理解する場面にも活かされ、お互いに認め合える適切な人間関係が構築され则认为、実践研究を行った。

2. 基本的な考え方

（1）「望ましい人間関係」を育むことについて

文部科学省（2017）によって告示された『中学校学習指導要領解説 総則編』では、生徒相互の人間関係を豊かにするために、互いに尊重し合い協働的に学び合える配慮の必要性を挙げている。また、「認め合う」ためには、自他の存在をそれぞれに認識し、自己の存在を確立・理解した上で、他者との違いや特徴に気づき、他者を受け入れていく必要がある。そのため、「望ましい人間関係」を育むためには、「自己の特徴や価値観を理解し受け入れること（自己受容）で、他者との違いを理解し、肯定的に受け入れられるようになる（他者受容）」ことが重要であると捉えた。

（2）自己受容について

春日（2015）は、自己受容に関する研究を幅広く検討した上で、自己受容とは、「ありのままの自己を受け入れようとする自己に対する“態度”や“姿勢”，またはその“過程”を意味している」と定義しており、本研究でもこの定義に従って実践を行った。

（3）中学生の自己受容について

筆者は、中学生の自己受容の様相は複雑で多種多様に広がっていることを踏まえた上で、自己受容に必要な要素として、「自分を大切にし、信頼すること」「自己の性格を理解し、受容すること」「見方を変えて、自分を捉え直すこと」「自分の中にある不合理な信念に気づき、なくしていくこと」の4つを考えた。

（4）総合単元的な道德学習について

総合単元的な道德学習では、道德の授業とそれに付随した体験活動の関連を図ることで、設定した単元のねらいに関わる気づきや考え、興味や関心が連続的に発展し、各授業に道德的価値のつながりが生まれ、継続的・計画的な取組が期待できる。自己受容に関しては、共通する一つの定義が定まっていない人間の複雑な内面的側面であり、段階的に理解・実践させていく必要があることから、総合単元的な道德学習による実践が効果的だと考える。

3. 研究の実践

- (1) 対象 茨城県公立 X 中学校 第2学年 Y 組 34 名（男子 19 名，女子 15 名）
- (2) 調査時期 前期実習：2024 年 6 月 24 日～7 月 12 日（事前調査：2024 年 6 月 24 日）
後期実習：2024 年 10 月 9 日～10 月 23 日（事後調査と自由記述の調査：2024 年 10 月 31 日）

(3) 実践の手立て

本研究は，自己を受容しようとする態度を獲得させるための総合単元的な道徳学習を表 1 のように実践した。総合単元的な道徳学習を計画する上では 4 つの段階を設定し，それぞれの段階に合わせて各授業や朝の時間を活用しながら，継続的・計画的に行った。

(4) 質問紙の構成

「新版中学生用学級風土尺度」から 2 つの下位尺度を用い，事前・事後調査として効果測定を行った。また，事後調査と併せて自由記述による調査を実施し，生徒の変化を多面的に観察することにした。

4. 研究の結果と考察

(1) 尺度調査の結果と考察

本研究と特に関連性の高い 2 つの下位尺度「生徒間の親しさ」「学級への満足感」について，対応のある t 検定を行った結果，「学級への満足感」において得点の上昇が見られた。

(2) 自由記述による結果と考察

活動全体を通して，自分のよさや個性に気付くことができた生徒が多くなった。その上で，自分のよさを大切にしようとする意欲，“自分は自分でいい”という感情，自己の性格に折り合いをつけることの重要性を実感できたことや，自分を捉え直そうとする感覚，自己受容を踏まえて他者受容へと意識できるようになったことなどが挙げられた。

5. 研究の成果と課題

本研究では，自己を受容しようとする態度を獲得したことで，自己に対する向き合い方を改善し，それを他者受容でも活かそうとする態度が高まったことが学級風土の向上につながったと明らかになった。自己受容する力を継続的に意識させ，他者受容との関連性をさらに高めつつ，学級内のどの生徒とも良好な関係を築けるような活動や取組を模索していくことが，今後の課題である。

表 1 総合単元的な道徳学習の活動計画

①単元名 「自己を受容する」			
②ねらい ・これまでの自分と向き合い、見つめ直す活動を通して、自分を大切にすることの必要性を実感し、自己を理解し受け入れていくための実践力を培う。			
次	日付	教科・主題等	ねらい
1 (課題の発見)	7/2	学級活動① SGE (構成的グループエンカウンター)	・よりよい人間関係を築くには、お互いに認め合う必要があることを知る。 ・お互いに認め合うためには、自分を受け入れながら相手を尊重することの大切さを理解する。
		朝の会① 「職業体験に向けて」	・これまでの自分を振り返りながら、職業体験に向けて自分にできることや課題に気付く。
2 (道徳的価値の理解)	7/10	道徳 「自分らしく生きる」 (個性の伸長)	・自己理解を深めることで、周囲の価値観に囚われることなく、自分を大切に信頼しようとする意欲を培う。
		学級活動② 「一方的な思い込みとは？」	・自分の中にある不合理な信念に気付き、その思い込みから抜け出すことの大切さを理解する。
3 (道徳的価値への追及)	10/2	学級活動③ 「自分の個性を再発見してみよう！」	・ものの見方・考え方を変えることで、自分を柔軟に捉え直そうとする態度を培う。
		英語 表現・対話活動	・他者の見方・考え方に触れながら、自分の意見や考えを整理したり深めたりする。
4 (道徳的実践力の育成)	10/2	朝の会② 「職業体験を振り返ろう」	・職業体験を振り返り、自己の特性や性格、適性などを受容していく力を培う。

主な引用文献

春日由美 (2015) 自己受容とその測定に関する一研究 南九州大学人間発達研究 5, 19-25.

文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領解説 総則編
https://www.mext.go.jp/content/220221-mxt_kyoiku02-100002180_003.pdf (参照 2024-8-23)

文部科学省 (2022) 生徒指導提要
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf (参照 2024-8-23)